

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙2）

団体名	学童保育 小田中ホール(通称:わいわいクラブ)
-----	-------------------------

取組の名称	上新城地域子ども・子育て支援事業 学童保育小田中ホール(わいわいクラブ)
実施場所	川崎市中原区上新城 1-2-28-302 (わいわいクラブ室において)
対象地域	川崎市中原区上新城・上小田中を中心とする地域
対象地域の特色・課題	対象地域は武蔵新城駅近くの閑静な住宅街。 交通の便が良く、共働き世帯・核家族が多い。 また、新しい住民も多いため子育てに関して孤立しがちであることが課題である。
取組の趣旨・目的	<p>1. 子どもたちの居場所の提供と自立へ向けた支援</p> <p>児童福祉法に基づいた「放課後児童クラブ」として、保護者が労働等により昼間家庭にいない小学生の子どもたちに対し、授業終了後に適切な遊び及び生活の場を提供し、健全な育成を図る目的で運営している。加えて、社会性を身につけ生活力を持った子どもたちを育成し、社会的な自立へ向けた支援を行うことを目指す。</p> <p>2. 地域交流と見守り活動の実施</p> <p>わいわいクラブは、2003年に自主運営になったときから、父母や指導員だけでなく、上新城町内会長、地域の有識者も運営委員の理事となって頂き、地域の中の学童として運営してきた。当クラブの保護者や子どもたちも町内会の活動に積極的に参加するなど、町内会との連携を深めている。町内全体で地域の子どもたちを見守る体制を構築するとともに、子どもたちも地域への親しみを深めることを目指している。また、ゴミ拾いなどの社会貢献活動を通して、社会・地域の一員としての意識を育むことを目指す。</p>

	<p>当クラブが遊びの拠点の一つにしている上小田中西公園は近隣の子どもたちの遊び場でもあり、指導員は当クラブの子どもと同様に、近隣の子どもたちと遊びを通じて交流し、時には適切な指導と援助を行っている。こうした交流を通じて地域の一員として、子どもたちを見守り育成することを目指している。</p> <p>3. 孤立した育児を防ぐ</p> <p>わいわいクラブは保護者が中心となって運営を行う自主学童保育である。指導員の給与計算からキャンプ等の行事实行にわたり様々な運営活動を保護者がボランティアで行っている。保護者の役割が多い反面、保護者の結びつきが強く、保護者同士が支え合って子育てを行う環境ができています。</p> <p>このように、保護者同士で支え合い助け合う環境を作ることで、孤立した育児を防ぐことを目指している。2018年度より、活動をわいわいクラブの中にとどまらず地域の保護者などに向けた相談の場へと広げ、「小1の壁」で悩む保護者から話を聞く・アドバイスする活動を開始した。(実施内容「6」、取組実施により見込まれる効果「効果1」参照)</p>
<p>実施内容・実施スケジュール</p>	<p>1. 放課後児童クラブの活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施時期 : 毎週月曜日～金曜日 (行事等は土・日も実施。ただし、祝日、お盆休み、年末年始を除く) ・ 時 間 : 通常時⇒下校時間～19:00 (最大延長時) 学校休業日(長期休み、開校記念日等)⇒ 8:30～19:00 (最大延長時) ・ 年間行事 : 歓迎遠足(4月)、 https://waiwaiclub.jimdofree.com/2021/06/27/%E6%AD%93%E8%BF%8E%E9%81%A0%E8%B6%B3/ 夏休み保育イベント(7月、8月)、日帰り親子キャンプ(8月) https://waiwaiclub.jimdofree.com/2021/10/15/2021%E5%B9%B4%E5%A4%8F%E4%BC%91%E3%81%BF%E3%81%AE%E6%80%9D%E3%81%84%E5%87%BA/ 卒室お祝い会(3月)、 https://waiwaiclub.jimdofree.com/2022/03/26/2021%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E5%8D%92%E5%AE%A4%E3%81%8A%E7%A5%9D%E3%81%8

4%E4%BC%9A/

4年生遠足(5月)、親子運動会(スポーツイベント)(11月)、けん玉大会(1月)、ドッジボール大会(3月)、お別れ遠足(3月)

- ・ 内 容 :子どもたちは縦割りの班を基本に生活する。上級生は班長となり、責任を持って子どもたちの間で起こった問題について話し合いを行って解決するよう努める。班はそれぞれ、おやつ準備、トイレ掃除、掃除機がけ、洗濯などを当番で行う。長期休み期間は子どもたちだけで昼食作りを行うなど、指導員の指導や手助けのもと、社会性や生活に必要な技術を身につけていく。また、遊びの中でも、他学童と合同のけん玉大会やドッジボール大会などを通じて、個人あるいはチームで目標を達成するために努力することを学んでいる。

遊びには、けん玉やコマ、将棋、囲碁、百人一首など、昔遊びを積極的に取り入れ、指導員や上級生が教える立場となり、代々昔遊びを継承している。

本年も例年と変わらず、上級生と下級生が協力して班の当番を行い、けん玉やコマ遊びに熱中する姿が見られた。

年間行事は親子で参加するものが多く、特に親子運動会(スポーツイベント)や日帰り親子キャンプでは、自分の子以外の子どもたちと交流するなど、保護者全体と子どもたちが深く関わり合う取組みを行った。

なお、卒室後も1年に1度、OGOB会や卒室保護者の会を開催することで継続した交流を行っていたが、今年度はコロナの影響により開催が見送られた。

このようなコロナ禍の中、卒室お祝い会では密を避けるために保護者参加者数を制限はしたが、リアルタイムでWEB配信を行い双方向でつながる等、できうる限りのことは行っている。

2. 放課後児童クラブの運営

在室・卒室児の保護者、指導員、地域の方々(町内会役員、民生委員など)により運営を実施。

- ① 役員会の実施(毎月1回。金曜日19:30または土曜日18:00)
会長、副会長、書記、会計、入室の役員が集まり、活動内容の報告や、今後の活動についての話し合いを行う。役員会で

決定した内容は、翌週の父母会で報告する。

今年度は昨年度同様コロナの影響で、リモート会議中心となった。

- ② 父母会の実施（毎月1回。役員会の翌週の金曜日 19:30 または土曜日 18:00）

指導員から日頃の子ども達の様子についての話や、各系の活動報告などを行う。出席率は高く、9割以上の保護者が毎月参加している。

今年度はコロナ対策のため、リモート会議を積極的に導入する一方で、父母の孤立を防ぐために、学年ごとに出席するなど、密を避けつつ何気ない会話のできる一部対面方式にも工夫を行った。

また大雨や台風等の災害シーズン前に地域の繋がりを再確認し、お互いに助け合える関係を構築するために、6月には十分広い会場（新城神社クラブ）を確保し、対面方式での父母会を開催した。父母会後には地域別懇談会を行い、近隣の家庭同士で情報交換を行った。

- ③ 実行委員の活動

キャンプ・バザー、イベントサポートの実行委員があり、それぞれ実行に向けた準備や当日の活動サポートを行った。今年度はコロナ影響によりバザーが中止となってしまったが、宿泊を伴うキャンプを日帰り行事に切り替えて実施したことにより、今できることをできる範囲でというコンセプトの元、父母や親子の交流ができた、

- ④ 運営委員会の実施（年に5回。5月、7月、10月、2月、3月の役員会後に実施）

指導員の待遇や、川崎市条例に遵守し運営する方法など、わいわいクラブの運営方針に関して話し合いを行った。

3. 町内における地域活動

- ① 上小田中西公園の清掃（毎月第4日曜日 9:00～）

町内会が実施している公園清掃に12年前から毎月親子で参加。全員が年に1度参加するよう年度初めに参加スケジュールを作成している。参加時はわいわいTシャツを着用し、町内会の方々に当クラブを身近に感じて頂き、子どもたちと顔見知りになって頂くことで、普段の遊びの中でも温かく見守って頂く関係性を築いている。

<https://waiwaiclub.jimdofree.com/2021/05/23/%E9%8B%BC%E7%AE%A1%E5%85%AC%E5%9C%92%E3%81%AE%E6%8E%83%E9%99%A4%E3%81%A8%E8%8A%B1%E6%A4%8D%E3%81%88/>

② 上小田中西公園のごみ拾い（毎月第2金曜日 夕方）

上記の町内会実施の清掃とは別に、わいわいクラブの子どもたちが自主的に毎月公園のごみ拾いを実施している。町内会が実施する公園清掃の中間の日程で行っており、公園の美化が保たれていると町内会からも感謝されている。

日々活動している公園は自分たちできれいにする、という意識を持つことで、地域の公園に愛着を持つとともに、子どもたちが地域に貢献し感謝されるという経験が、自然とボランティア精神を育む場となっている。

また、3密を避けるため日頃の公園等屋外でのクラブ活動が増える中で、公園植木伐採後に根元が残っていた箇所を発見した際は、地域住民が安全に公園で過ごせるよう町内会及び市の担当窓口へ報告した。結果根本も除去していただき、地域の子供達やお年寄りが安全に公園で楽しめるようになった。このように地域と密接に連携をしながら、活動を行っている。

③ 防犯情報などの共有

上小田中西公園はわいわいクラブの目の前にあり、ほぼ毎日公園で活動している。そのため不審者に気付いたときは警察に通報するとともに町内会と情報共有し、連携して地域の安全に努めている。また、当クラブの指導員は公園で遊ぶ地域の子供たちから顔を覚えられており、困ったときは助けを求められる存在になっている。

4. 町内をこえた地域活動

① ろう学校の草むしり活動

例年夏休みやイベントの際にろう学校の体育館や校庭をお借りしているため草むしり活動にも毎年積極的に参加していたが、今年度は該当時期に施設貸し出しを中断されており、実施できなかった。

② 他学童との交流

川崎市の他の学童と合同で、毎年けん玉大会（1月）、ドッジボール大会（3月）、将棋大会（年数回）などを実施し、学区

外の子どもたちとの交流を図っている。コロナ禍の対応策でリモート環境が整ったこともあり、今年度は他学童と子供たちがリモートでつながり、お互いの学童や現在楽しんでいる遊び等を紹介する機会をつくった。また、各学童の指導員が毎月定期的にリモート会議を行い、コロナ禍での健全な保育について情報を共有している。その中で夏季には当クラブで策定した熱中症対策について情報共有した。今後の参考にさせて欲しい等意見もいただくことができ、町内をこえた地域活動においても一定の貢献が出来ていると自負している。

③ 中原区民祭への出店

例年秋に実施される中原区民祭に出店しているが、今年度はコロナ禍で中止となった。

5. 関係機関との連携

① 小学校との連携

毎年わいわいクラブの新入生名簿を小学校に提出し、地震などの災害時に備え、学校からの下校途中に災害が発生した場合の具体的な対応方法について小学校と直接話し合っており、取り決めを行い、子どもたちの安全を双方で見守れるよう連携を行っている。

10月1日台風時の下校は小学校と連絡を取り、低学年は小学校の先生に付き添いいただき、高学年は父母有志が小学校前から学童まで送り届けるという連携を取った。

また日頃から子ども同士のトラブルがあった場合は、必要に応じて小学校と連携し、よりよい形で解決できるよう努めている。

② 近隣の保育園との連携

指導員が入室予定の子どもの保育園に出向き、普段の子どもの様子を聞くなど、子ども達が安心して学童生活を過ごせるよう連携を図っている。

③ 児童相談所、家庭支援センター、療育センター等との連携

子育て相談の場（実施内容「6」参照）にて重要な相談があった場合は、児童相談所や家庭支援センター、療育センターなど適切な関係機関と連携し、相談者の保護者と行政がつながるよう支援を行う。

6. 子育て相談の場の提供

子育て相談の場を提供（年に2回。6月、1月）

年に2回、年中・年長・小学生保護者向けの子育て相談の場を提供した。就学に向け「小1の壁」を不安に感じる保護者などに対し、当クラブの保護者が話を聞いたり、体験談を伝えたりすることで、小学校生活に対する不安解消の手助けをした。

なお、当クラブで手助け困難である重要な相談については、市の関連機関と連携することにより問題解決につながるよう努めている。6月に保育のご相談連絡をされた外国籍の方の話を伺い、当クラブでの経験談ではなく外国籍の方の保育全般についてのご不安であることを確認後、子育て相談も可能な川崎市の外国人相談窓口を該当言語対応日と共にご紹介した。

相談会の実施は、近隣保育園や町内商店街、様々な習い事の教室、当クラブホームページなどに掲示し周知を行った。

9. 楽しみながら「ふれあう・学ぶ」場の提供

※以下申請時に項番ズレが生じています。7項、8項については欠番としてご対応いただけますよう、何とぞお願い申し上げます。

今年度はコロナ禍により、対外的な活動が制限されたため、フードドライブのみを実施することで、コロナ等で食事に困っている方への支援を継続的に実施した。

・今、自分たちにできることってなんだろう？

フードバンクを通じた物の支援

提供先：川崎市フードドライブ（11月）

<https://waiwaiclub.jimdofree.com/2021/11/29/2021%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E3%83%95%E3%83%BC%E3%83%89%E3%83%89%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%96%E6%B4%BB%E5%8B%95%E5%A0%B1%E5%91%8A/>

10. 大規模災害への備え(自助及び共助)

自助及び共助の精神により、以下の通り災害時の行動計画を定め、実践している。

① 子供たち、指導員、父母の安心・安全の確保

- ② 関係機関との連携
- ③ 日頃お世話になっている地域への支援

① 子供たち、指導員、家族の安心・安全の確保(自助)

(ア)災害時連絡体制の確立

災害時の子供たちの安全第一を考え避難訓練方法を平時から確認。また、学年毎の緊急連絡網を整備し、災害時にも父母との連絡手段を確立している。

(イ)災害伝言ダイヤルによる訓練

半年に一度(6月、12月)災害伝言ダイヤルによる訓練を実施し、平時から災害時に連絡を取る環境整備の醸成に取り組んだ。

② 関係機関との連携

5項①に記載の通り、災害発生時の対処方法について、小学校と直接話し合っており取り決めを行い、子どもたちの安心・安全を確保している。

③ 災害時の援助(共助)

2019年の台風19号による大雨の影響で多摩川が氾濫危険水位に達し、近隣でも浸水被害が発生した。その際、タオルや衣類の提供を当クラブ内で募り、支援を実施。このような不測の事態でも常日頃から父母が協力し当団体を運営しているため、すぐに対応をとれる体制が整っている。今後は災害時に当施設の一部を開放なども検討していく。

2021年度は該当事案無し。

【補足：当クラブに対する補助金交付の効果】

緊急事態宣言下で学校の夏休みが急遽延長となったため、夏休み延長該当日について開室時間を延長(8:30-19:00)した。これにより指導員への勤務時間が当初の想定より増加した。

またコロナの影響等ご家庭の事情により退室されるご家庭も複数あった。

上記から、原資が保育料のみの当クラブの運営は苦しい状況となってしまったが、補助金を交付いただけたおかげで何とか運営できている。

参加者の年代	主に未就学児～小学生及びその保護者	定員 (1回あたり)	実施内容によるが地域活動・子育て相談に関しては希望者を幅広く受け入れを行っている。
実施頻度	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブ活動関連 : 毎週月曜日～金曜日 (行事等は土・日も実施。ただし祝日、お盆休み、年末年始を除く) ・地域活動関連 : 年間 40 日程度 ・関係機関との連携 : 必要に応じて随時 ・子育て相談 : 年間 2 回 	活動日数 (年間)	254 日 (2021 年度実績。)
スタッフ体制	正規職員の指導員 2 名及びパート指導員 2 名 (4 名共に有資格者) を中心に、実施内容によっては放課後児童クラブ所属児童父母もスタッフとしてサポートしている。		
連携する団体・連携の手法	<p>詳細について実施内容の各項目でも述べた通り、関係団体との連携を積極的に実施している。</p> <p>① 近隣小学校との連携 大谷戸・末長の各小学校と、電話及び保護者・児童を通じて連携している。</p> <p>② 近隣保育園との連携 近隣の複数保育園へ直接出向き、情報共有を実施している。</p> <p>③ 児童相談所、家庭支援センター、療育センター等との連携 各活動を実施する中で必要を認めた場合適切な関係機関と連携している。</p>		

	<p>④ 近隣の中学・高校との連携 要請に応じて連携を実施している。</p> <p>⑤ 町内会との連携 所属している上新城町内会の各行事への積極的な参加及びLINE・メール・電話での連携を実施している。</p> <p>⑥ 川崎市内の他の学童保育との連携 年に複数回イベントを実施し子ども同士も楽しんで交流している。また、指導員同士の連絡体制も整っており、保育における問題点の共有等連携を密にしている。</p>
<p>取組実施により見込まれた効果</p>	<p>効果1. 地域の保護者の孤立育児を防ぐ</p> <p>保育園に子どもを預けている保護者は共働きであり、子育てに関して相談する相手や機会が少ない。当クラブの入室説明会においても、参加した未就学児の父母から「通っている保育園は保護者会などがなく、相談する相手がいないので、(入室説明会で)入学後の過ごし方を相談できて良かった」との声があった。特に第一子の保護者は、就学予定の小学校の様子を相談する相手がいない場合が多く、不安を抱えている保護者が多い。当クラブには、近隣の複数の小学校区の保護者がいるため、相談者の学区の小学校の様子を伝えることができる。当クラブにて相談の場を設けることにより、地域の保護者の孤立育児を防ぐ効果があると考えている。</p> <p><様々な事情・困難を抱えた保護者の孤立育児防止にも貢献できる></p> <p>当クラブには外国出身の保護者もおり、日本の小学校の様子が分からない保護者にも経験談などを伝えることができる。さらに特別支援級に通う子どもも受け入れており、同じように困難を抱えている子どもたちの保護者に対しても、相談に乗り、不安解消の手助けになれるのではないかと考えている。</p> <p>様々な事情・困難を抱えた保護者は、より相談相手が少なく、孤立育児になりがちである。当クラブでは、このように様々な子どもたちを受けいれているため、これらの相談に対しても、具体的な経験談を伝えることができ、孤立育児の防止に貢献できると考えている。</p> <p>効果2. 多くの大人たちで、子どもたちを見守る環境の実現</p> <p>当クラブは自主運営の施設であるため、保護者が話し合いを</p>

重ね、協力して活動を支えている。コロナ禍においても、日帰りキャンプやスポーツイベントなどの行事も保護者が参加し、子どもたちと一緒に多くの時間を過ごしている。それゆえ、子どもと保護者、指導員と保護者、保護者同士の関わり合いが深く、道で会ったときは「いってらっしゃい」「今から帰るの？気をつけてね」と気軽に声掛けする環境ができており、子どもたちは多くの大人に見守られて成長することができる。当クラブに在籍するのは小1～小4の4年間であるが、卒業後もこの関係は変わらず、中学生や高校生になっても見守る環境を継続している。こうした環境が実現できているのは、親子キャンや親子運動会（スポーツイベント）などで保護者と子どもたちが深くかかわりあう4年間を過ごしているからこそである。

また、当クラブは卒業後も困ったときにはいつでも立ち寄るよう、指導員は子どもたちに声掛けをしている。家の鍵を忘れたときや、電車賃を忘れた場合などに頼れる場所になるとともに、中学生、高校生になっても、ちょっと立ち寄ってくつろいだり、話ができる場として存在している。当クラブを継続して運営することで、いつも同じ場所に、同じ指導員がいてくれる、とう安心感を与えられている。

効果3. 親子と地域社会のつながりを築く

地域全体で子ども・若者を見守り、支える環境をつくるには、子どもたちが様々な町内活動に参加することで、地域の人々とふれあい、地域に慣れ親しむことが大切と考えている。当クラブでは様々な地域活動に参加することで、子どもたちが地域の方々と関わる機会を設けるとともに、地域の方々にも当クラブの子どもたちと顔見知りになって頂いている。また、親の世代は他の地域から引っ越してきた家庭が多く、保護者たちも当クラブの活動に参加することで、子育てを通して地域に親しみ、つながりを持つことが可能となっている。このようなつながりは一朝一夕に築けるものではなく、開所以来 37 年に渡り地域とのかかわりを継続してきたからこそであり、親世代はいずれ自分の子だけでなく地域全体の子どもを見守り、子どもたちは若者になっても地域全体から見守られ、支えられるという環境の土台になると考えている。

効果4. 放課後の子どもの居場所の選択肢を増やす

当クラブでは、特別な支援が必要な児童や、不特定多数の中では安定できないなど、困難を抱えた児童に対し、指導員の援助と保護者の理解、協力のもと、受け入れを行っている。子どもの状況や、家庭環境を考慮し、時には規則を変えたり、特例を設けるなど、父母会、役員会、運営委員会の中で話し合いを重ね、柔軟に対応している。また、子ども達が会議を開き、新しい仲間と楽しく過ごすにはどうすればよいか真剣に話し合いをして、一人一人の子どもの個性を受け入れる方法を模索している。こうした活動に賛同する方も多く、これまでに4つの小学校区（大谷戸、新城、末長、大戸）から子どもたちが通っている。

なお川崎市には「わくわくプラザ」があり多くの子どもたちの居場所を提供している。当クラブはわくわくプラザを否定するものではなく、「わくわくプラザ」「民間学童」とともに各家庭にとっての子どもの居場所の選択肢を増やすことが大切と考えている。

効果5. 地域の子どもたちを見守る環境づくり

公園においては、地域の子どもたちが子ども同士で遊びに来て、木登り、ブランコ等でケガをすることも多い。その際には当クラブの子どもたちと分け隔てなく、指導員が救護・保護をし、保護者に連絡を入れるなどの支援を行ってきた。公園付近には、不審者が徘徊することも多く、公園を利用する幼児連れのお母さんとコミュニケーションを取りながら、公園内の安全を見守るように努めている。毎日公園に来ている子どもたちとは顔見知りになり、頼られることもよくある。また、上小田中西公園に茶毒蛾が発生したり、植木伐採後の根本が残っていた際には、積極的に市や町内会に報告を行い、撤去や伐採に協力を行うことで、地域の子供たちの安全を守ることも積極的に実践している。

効果6. 大規模災害への備えによる地域貢献(自助及び共助)

2019年度の台風19号による多摩川の浸水被害等を受け、当地域での防災対策に関する関心は高まっている。

一方で、自治体による公助には、避難所等施設の容量やコストの関係から限界があると考えている。

当クラブでは、新城4町会合同避難所運営訓練の参加等を通し

	<p>て、自助及び共助が必要であると考え、10項③に記載した様に、近隣でも浸水被害が発生した際に、タオルや衣類の提供を当クラブ内で募り、支援を実施することで、当クラブが共助の一翼を担っていると考えている。</p> <p>効果7. 複合的な効果</p> <p>当クラブは40年近く活動を継続しており、これまで培ってきた保護者や地域の方々、そして子ども達との繋がりはとても大きな財産である。</p> <p>このように小さな活動を積み重ね、気軽に相談できる場所・遊べる場所として認知され広く地域に貢献できる施設となることができた。今後も地域に根差した活動を続け、子ども達が笑顔で過ごせるよう力を尽くしたい。</p>
--	---